

学校だより

# かぎやま

発行  
久米島小学校  
平成28年  
2月15日  
第19号

## 友情の翼 なかさと交流

発見 感動から  
確かな学びへ

第五十回なかさと交流が二月四日から七日までの三泊四日の日程で実施されました。本事業は、新潟県十日町市中里地区の児童と本町児童の交流を深め、友情の輪を広げることや自然環境、気候風土の異なる地を訪問し、ホームステイなどの交流体験活動とおして視野を広げることからねらいとし、今年で、二十五年目を迎えています。この間、多くの児童が友情の輪を広げ、多くの貴重な体験を積んできています。

さて、今回の交流は、本町から5年生、十四名の児童が参加し、なかさと地区での学校生活と雪国ならではの生活を体験することができました。スキーやスノーモービル、雪合戦等、初めてのことに戸惑いながらも笑顔いっぱい積極的に活動を楽しんでいました。個々の児童は、雪国の生活について調べ、南国の生活との違いを実感し、様々な工夫等を感じ取ることができたようです。

これまで、雪国の生活や学校の様子、遊び等、様々なことについて調べしっかりとイメージを持っていますが、雪の感触や、スキーの滑り具合、雨混ざりの雪の様子等々、これまで調べてきたことが実際に生活することで、新たな発見と感動があり、確かな学びとして形作られていく様に強く感じました。また、児童は、受け入れ家庭や各々学校での交流をとおして多くの方々の温かい気持ちに触れ、感謝の気持ちとともに逞しく成長する貴重な交流になったようです。子ども達が、本物に触れ、感じ得たことは一生の宝物となり、あらゆる場面で力になることだと思えます。今後、子ども達が親交を温め、互いの成長を確認しつつ交流が継続するよう願うものです。

親元を離れ双方の環境の違いを体感する、発見 感動のなかさと交流積極的に話しかけ、元気いっぱい活動している様子から、逞しさと頼もしさを感じました。

### なかさと交流

本校から参加した五年生の宮平さんは、十日町市田沢小学校、五年生の在籍が三六名の学級で交流を行いました。

全体交流会では、訪問生が久米島町や各々学校の学校生活の様子について発表しました。宮平さんも、久米島小学校の歴史と伝統、縦割り班活動や地域の行事などの様子について、堂々と発表すること



ができました。



### 節分

久米島小学校に、鬼が現れる。二月三日の節分は立春に伴い季節を分けることを意味しており、年齢の数だけ豆を食べ邪気や厄除けとして行われてきています。本校の低学年でも、子ども達の健康・安全を願い、毎年実施されています。今年度は、赤鬼と青鬼が校庭に現れ、子ども達



は大パニック。泣きそうな顔をしながら「鬼は外」と手にした豆を力一杯に投げつけていました。きっと今年も元気に逞しく成長してくれる思いでした。

### 委員会活動引継式

本校では、児童が楽しく、過ごしやすい学校をつくるために5つの委員会が設置されており、日常的に活動を行っています。2月のこの時期は、これまで委員会活動の中心となって進めてきた6年生からの活動の引継が行われます。10日の引継式では、卒業を控えた6年生から在校生へ、次の様な活動に関する願いが伝えられました。

体育・放送委員会の佐久川さんは、朝の放送、体育館の開閉など、みんなの活動がスムーズに行えるよう早起きをして活動を進めたことや放送の間違いが無いように分かりやすく放送するために原稿を何度も練習して臨んだことを発表しました。

運営委員会の宇久里さんは、行事の進行や取り組みの計画、自分たちがみんなをリードしていくんだという強い気持ちで取り組んだことを話してくれました。

飼育・栽培委員会の与座さんは、動物の事や気持ちを考えてお世話することが大切、責任をもってみんなでかわいがって欲しいと願いを込めて発表しました。

給食・保健委員会の玉城さんは、みんなの健康を考え、歯みがきのことや給食室の清掃のこと、健康の大切さについて取り組みや発表を考えたことなどを発表しました。

図書・掲示委員会の佐久川さんは、読み聞かせなど人前で発表する事は苦手だったけどいろいろと工夫し最後までがんばれたこと、さらに工夫を重ねて、活動を広げて欲しいと話してくれました。

活動を進めるためには、「仲間と一緒に考え、協力し、助け合うこと大切」と学校生活を豊かにし活動を継続するコツを話しておりました。在校生も校風をしっかりと受け継ぎ責任をもって取り組んでくれるものと思います。